

2024 年度 帰国生徒入試【理工学部】

受 験 番 号	氏 名	志 望 学 科
-		

「費用対効果、医療にも」

がんを告知された英国人女性が、効果があるといわれる治療薬を知った。しかし、公的医療では認められないと医師に言われる。税金でまかなうには価格が高すぎるのが理由だった。

もうすぐ家族とお別れかもしれない。「どんなに家族のことを思い、どれほど一緒に過ごしたいか」を強く感じた、彼女の手記にある。薬を使わせてほしいと政治に働きかけ、最後は特例ながら認められた。

こうした出来事の背景には、「費用対効果」に基づく英国の制度がある。漢字でわずか5字ながら、その意味は重い。「どれだけお金がかかるか」と「どれだけ生きられるか」を天秤（てんびん）にかけるのだから。もしかして将来は日本も、と思わせる動きが出ている。

厚生労働省が、7種類の医薬品と5種類の医療機器を選び、費用対効果を分析するという。1人あたり年間約3500万円かかるがん治療薬もある。大部分が税金や保険料でまかなわれることを考えれば確かに高い。一方で患者や家族が薬に託す「希望」を想像する。

医療は分け隔てなく施されるべきだと、昔から「医は仁術なり」と言う。しかし今は、「医は高度技術なり」とも言えそうだ。そして先端の治療は、ときに大変な費用がかかる。仁術であることを保証するのが我が健康保険制度ではあるが、どこまで重みに耐えられるか。

考えたくないことまで考えねばならぬ時代になった。議論を尽くそう、というのは陳腐な言葉かもしれない。でもこの件ほど、そう感じることはない。

出典：『朝日新聞』 2016 年 4 月 30 日 天声人語 一部改変

設問 1. この文章の内容を 190～220 文字でまとめなさい。

設問2. この文章は「医療に関する費用対効果」について記述されたものである。

この文書を参考に、「教育に関する費用対効果」について、あなた自身の考えを 320～370 文字で記述しなさい。